

茨城県現代俳句協会会報

令和二年度にあたり

コロナ禍を乗り越え発展の年に

県現代俳句協会会長 高橋和彌

来ない心残りの総会でした。

今、新型コロナ禍は全国で再発拡大し、主要都市では第4波の緊急事態宣言が施行されています。併せて感染力の強い変異株も全国に拡がりを見せ、俳句活動にも予断を許さぬ状況にあります。県内でも5月10日より高齢者のワクチンの接種予約が始まりました。接種は6月からですが一日も速いコロナの収束を願うものです。

去る4月29日水戸市の県立青少年会館に於いて令和3年度の通常総会が開催され、全ての議案が承認されました。思えば昨令和2年度の総会は、新型コロナの感染予防から文書による通信総会となり、全議案承認され活動を発進しましたが、新役員体制の顔合せも出



No.138
2021年7月

制を作りました。小松崎黎子実行委員長を先頭に大会成功に向け奮闘中です。是非皆さんに沢山の投句で成功させてください。

また現在第58回現代俳句全国大会も7月31日締切りで作品を募集中です。その他県内の俳句大会では、第7回袖の街結城蕪村俳句大会、筑西市第15回記念芸術祭俳句大会など俳句大会の動きが見えるようになりました。昨

年は土浦大会、潮来大会、石岡大会など県内の大きな俳句大会が総会となり、併せてコロナ禍から多くの句会が通信句会となりました。是非これらの大会が成功されるよう協会としても成功に努力して行きたいと思っています。

本年度の総会で確認された活動でも一つの特徴は、現代俳句協会員のみが参加できる句会を開催することです。従来、総会以外の大会や吟行会等は、会員に関係なく何方でも参加できる様になっています。そこで会員相互の自覚と意欲の向上のため①中央の講師による全句講評講座の開催。②県内を区分して会員に限る句会を開催することです。②については今後具体策を練つてまいります。

今、会員減少に歯止めのかからない中で如何にして気概ある県協会にしてゆくかを皆さんと共に考えて行きたいと思います。

一年ぶりの通常総会を開催

コロナ禍の中23名出席・74%の信任率

事務局長 山口富雄

令和三年度の通常総会は、水戸市・県立青少年会館に於いて、例年通り4月29日の昭和の日に開催された。コロナ禍の中で開催が危ぶまれましたが、60名入れる広い会場でゆつたりと座席の間隔を取り、予定通り総会終了後の句会を含めて終了、コロナ禍の中でもあり反省会を含めた懇親会は来年へ持ち越しと致しました。

代行報告。

小松崎黎子副会長の開会挨拶の後、高橋和彌会長の総会参加へのお礼、そして激減する会員増のための地区別句会の取り組み・本部のご支援を頂いての全句講評句会など、コロナ禍の中で俳句の灯を守り続けていく強い決意を込めた挨拶が総会を盛り上げた。続いて

総会成立報告の表題の数字を山口富雄事務局長が読み上げ確認、満場一致で議長に白土昌夫さんを選出して議事の討議に入つた。

コロナ禍の中で、令和二年度は総会・大会とも紙上対応という協会始まって以来の経験

春一番ばらばらになる鬱の文字
茎立ちや毀れやすくて少年期
舵取りは風の船長花筏
肉球のかたちで乾く春の泥
ぐおぐおと湯の沸いてくる震災忌
何事も自分ファースト万愚節
建国日祈りのごとく米を研ぐ
ここまでと朝のジョギング諸葛菜
局長からの報告となつた。監査報告は出席予
定の根本きよ志さんが体調不調で欠席のため、出席者の同意を得て山口富雄事務局長が

大野ひろし
宮路久子
山口富雄

竹林の揺まるるうねり春一番
極上の酒に搖蕩ふ春の宵
遠足の口をあふるる沢の水
ネモフィラの一日万株風光る
しゃぼん玉風に一つは天守閣
亀鳴くや喋り過ぎよと妻抓る
おむつの父をほっこり見てる春の山

小松崎黎子
菅原伸江
山田健太
糸賀睦子
宮本喜実世
新井洗澄

(参加者作品・順不同)

あと一年寝かせる夫の花見酒
轡りに歩幅軽やか童歌
戦わず土墨に群れる諸葛菜
本丸の桜に雨の降りてをり
おむつの父をほっこり見てる春の山

白土昌夫
塙谷みみこ

轡りに歩幅軽やか童歌
戦わず土墨に群れる諸葛菜
本丸の桜に雨の降りてをり
おむつの父をほっこり見てる春の山

森井省二
淀名和さち
黒澤みどり

青き踏む一番軽い靴履いて
自肅てふ不思議な時間街薄暑
宮路久子

安藤玲子

轡りに歩幅軽やか童歌
戦わず土墨に群れる諸葛菜
本丸の桜に雨の降りてをり
おむつの父をほっこり見てる春の山

佐藤和子

安藤玲子

轡りに歩幅軽やか童歌
戦わず土墨に群れる諸葛菜
本丸の桜に雨の降りてをり
おむつの父をほっこり見てる春の山

佐藤和子

令和2年度茨城県現代俳句協会収支決算報告書

令和3年4月29日

会計 村田 妙子
会計 岡里 共子

1. 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
繰り越し	263,011	263,011	0	
会費	100,000	104,000	4,000	1,000×102名 先払い2名
助成金	200,000	214,000	14,000	2,000×107名
雑収入	36,989	277,869	240,880	創立40周年残金142,336円 37回大会残金105,530円 句集10,000冊 ご寄付・松原利子様より20,000円
合 計	600,000	858,880	258,880	

2. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
総会費	20,000	19,300	700	総会句会賞品等
事業費	20,000	0	20,000	関東ブロック会議中止・吟行会延期
会議費	70,000	33,260	36,740	会場費、幹事旅費等
広報費	200,000	178,930	21,070	135号～137号発刊費用
事務費	100,000	155,701	△ 55,701	紙上での大会・総会等で上昇
顕彰費	30,000	35,893	△ 5,893	第28回奨励賞などの郵送費等
慶弔費	20,000	10,000	10,000	鴨下昭様・大城清一様
準備基金	138,000	0	138,000	
予備費	2,000	0	2,000	
合 計	600,000	433,084	△ 166,916	

(収入総額) 858,880円 - (支出総額) 433,084 = 425,796円
差引残高 425,796円は次年度へ繰越します。

会計監査報告書

令和2年度の現金出納簿、領収書、通帳及び現金について監査の結果、適正であることを証明します。

令和3年4月16日

茨城県現代俳句協会会計監査

根 本 きよ志



茨城県現代俳句協会会計監査

黒 沢 弘 行



令和3年度活動計画

行 事 名	内 容
1. 令和3年度通常総会	令和3年4月29日 水戸市 県立青少年会館。総会・句会・
2. 第38回茨城俳句大会	令和3年7月22日 笠間市友部。トモア。講師・佐怒賀正美現代俳句協会副幹事長・秋主宰 実行委員長・小松崎黎子副会長。事務局長・山口富雄 当日課題『正』】
3. 第29回作品奨励賞	未受賞者全員が対象・30句で応募。締切り 5月31日 7月選考会。表彰7/22現代俳句茨城大会会場。
4. 第33回吟行会	令和3年9月17日(金)笠間市稻田469・稻田禪房・西念寺 親鸞聖人立教開宗の聖地 関東20年の本拠 教行信証ご執筆 事業部を中心に企画・実施 詳細は会報にてお知らせします。
5. 会報の発行	年3回発行 №138～140号を予定 担当 高野よしこ・佐藤和子 『私の歳時記』欄への会員の参加・1年に1度会員の作品を会報へ掲載
6. 幹事会及び委員会	幹事会3回・作品奨励賞選考委員会など、必要に応じて開催
7. 現代俳句協会関連	全句講評句会(本部年間計画・事前投句を講師が講評) 総会で決定後、早急に開催時期・11月中旬・開催場所・講師候補を決定する。募集人数・40名予定
8. 地区別句会の開催	会員に限る句会を、県内を3地区に分けて開催。 会員相互の意欲の向上・情報交換・会員増に繋げる試みとする。 総会で決定後、早急に開催時期・開催場所を決定する
9. 現代俳句協会関連	本年度の第58回現代俳句全国大会は、10月30日東京都台東区で開催。
10. 県内の俳句大会予定	☆第43回県芸術祭参加俳句大会:(11/3) ☆第15回筑西市芸術祭 参加俳句大会(10/17) ☆第7回ゆうき蕪村俳句大会(9/4)

令和3年度茨城県現代俳句協会予算書

1. 収 入 の 部 令和3年4月29日 会計 村田 妙子
会計 岡里 共子

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
繰 越 金	425,796	263,011	162,785	
会 費	90,000	100,000	△ 10,000	会員減を見込み90名を想定
助 成 金	180,000	200,000	△ 20,000	会員減を見込み90名を想定
雑 収 入	4,204	36,989	△ 32,785	
合 計	700,000	600,000	100,000	

2. 支 出 の 部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	30,000	20,000	10,000	総会句会賞品等
事 業 費	30,000	20,000	10,000	吟行会賞品等
会 議 費	70,000	70,000	0	幹事会会場費・その他
広 報 費	220,000	200,000	20,000	138～140号発刊費用
事 務 費	120,000	100,000	20,000	通信費・コピー等(紙上大会になると上昇の危険も)
顕 彰 費	45,500	30,000	15,500	第29回奨励賞など
慶弔 費	20,000	20,000	0	弔慰金・祝金など
準 備 基 金	118,000	138,000	△ 20,000	
予 備 費	46,500	2,000	44,500	
合 計	700,000	600,000	100,000	

受贈誌紹介

「亞」
2021年三月号（代表・長谷川進）

冷戦の本も飛び出す春の地震
清貧の揺れを囊に打たれおり

書き出してはや後悔の初日記
追伸の二行のうれし盆の梅

正直がいちばん楽で霜の花
しぐるるや不開の門に弾の痕

四温晴れゴム入れ直す運動着
湖辺よりバイク商い寒鮒煮

丘陸の麓は京都風光る
一斉に秒針はずむクロツカス

新井 洗澄
高橋 和彌
根本きよ志
野村 洋子
村田 妙子

秋山ふさこ
井坂 あさ
黒沢みどり
鶴岡しげを
淀名和さち

五月号
今日の芽の次の世代を抱きつつ
線香の燃へ尽き早し涅槃西風
無口なる里一面の番麦の花
古民家の食事処や蕗の薹

轟や玻璃にすひつく猫の鼻
浴衣縫う母の旧姓鯨尺
揚げ餅の破裂の続く花曇

鈴木やすを
高橋 和彌
山口 富雄

白河の閖まで三里風花す

六月号
一物もなき鮫鱗の腹の中
書き出しに国難と記す初日記

金澤 踏青
印南 美都
栗田 幸一
坂場 俊仁

高橋 和彌
吉元 絹江
伏屋 雅子

鈴木やすを
高橋 和彌
山口 富雄

白河の閖まで三里風花す

山茶花の垣根を赤きランドセル
鯉のぼり海青ければ空あおし
宮本喜実世

「衣」
2021年第十九号（代表・金子 嵩）

撥持てぬ三味線草が音外す
本棚の本の匂いや冬日和

山口 富雄
飯田 和恵
梅井 玲子
北田 久雄

初夢は月の砂漠を駆けており
黒豆や不要不急の妻であり

尋ね来てパン屋休日小春空
清水 三子
中川 芳子

第一〇〇号
埋火や鍋が息する息止める

春の闇週刊誌から世が動く
春深し夫のみやげは紅き杖

木の芽風スリッパの上に眠る猫
椿落ちここ幽界の出入り口

「ひたち野」
2021年三月号（主宰・矢須恵由）

溜りたる新聞を読む冬の雨
日脚伸ぶパズルに悩む小半日

天下井誠史
奈須野敬子
永井 淑子
鈴木ひさ子
浜風や椿の白は鑄びやすき

秋山ふさこ
井坂 あさ
黒沢みどり
鶴岡しげを
日溜りの針山に針膝毛布

鮫鱗の背骨を晒しショ一終る
海端の古き船宿鮫鱗鍋

矢須 恵由
天下井誠史
奈須野敬子
永井 淑子
鈴木ひさ子
浜風や椿の白は鑄びやすき

「むつみ」
第二七〇号（会長・大野ひろし）

「むつみ」
第二七〇号（会長・大野ひろし）

高原へこぼる子羊風光る
むず痒き林道補修山笑ふ

老鷺のきつちり決める終止形
回覧板回す裏木戸著我の花

何も彼も乾き切つたる寒の入
春寒し建前ばかり聞かされて
桑の芽や秩父路どとも水の音
よく晴れてしまらく匂ふ野水仙

印南 美都
飛田 伸夫
坂場 俊仁
天下井誠史
印南 美都
飛田 伸夫
坂場 俊仁
天下井誠史

高木 静水
根本 邦子
山岸 三子
矢口 契子

高橋 和彌
白土 昌夫
小松崎黎子
大野ひろし

高橋 和彌
白土 昌夫
小松崎黎子
大野ひろし

川上 修一
高橋 和彌
白土 昌夫
小松崎黎子
大野ひろし

五月号

石田誠一郎

句会探訪

会員の皆様の句
会の様子をご紹
介させていただ

《木曜会》

きます。

当会は毎月第二週の木曜日に行き、句会を行なうで木曜会と名を付けた。発足から十年以上は経過していると思う。会の主義主張などはない。会員は十名（一名休会）。会長・代表は置かず合議制で運営している。出句は五句（兼題含）、選句は五句（特選一句）としている。

句会の進行役は原則として全員の持ち回りで行う。被講者は、その場で各自が行い終わつた後に司会の指名により講評を行う。通り方は他の句会と同様であり変わるものではない。

作句手法は旧かなと新かな作りの区別はせずに自由である。手法は概ね半々に分かれるが何ら支障はない。特別な指導者は居ないが全員がペテランの俳人であり的確に選句講評しないと、嘲笑されかねない厳しい会でもある。以前は吟行会も行い遊び、楽しく学ぶこと、そして活発な発言尊重を基本にしていて。しかし誹謗中傷は決して許さず、仲間を心から敬う会もある。

六月定例句会 兼題「出」

簡鳥や足崩しての読み聞かせ 新井 洋澄
アカシアの房の重さを持て余し //
花は葉に日々に重たしスクワット 鈴木やすを
雷走る関八州を食み出せり //

出目金に負けてしまつたにらめっこ 大野ひろし
ハンガーの出払つてゐる梅雨晴間 //

公園に婚の前撮り新樹光 小松崎黎子
出来心はやしてゐたる時鳥 //

声を出し走る野球部夏の雲 飛田 伸夫
出雛子や嘶家の脱ぐ夏羽織 //

オリンピックの意義のふらふら田螺鳴く 塩谷きみこ
総立ちのどくだみ雨を待ちにけり //

降り出してあぢさぬのこゑ生まれけり //

山田 健太

隆々と赤子の出べそ夏来る //

大夕焼鍋を焦がしてしまいかり

岡里 共子

ファインダーの捉えし鳩の浮巢かな //

佐藤 和子

校門を出れば走る子麦の秋 //

風薫る出雲大社へ四拍手 //

悔みごと書いて転がす枇杷の種 //

高野よしこ

自肅して出目金の泡ふいており //

ます。

集するもの拒まず。参加希望者は歓迎いたします。
(新井洋澄記)

〈同封の葉書について〉



『私の歳時記』

「俳句はウイルス」

とく ぐいち

少し前のことだが、高柳重信の多行形式
俳句「身をそらす虹の絶巔廻
處刑台」

を從来の一形形式「身をそらす虹の絶巔廻
刑台」に書き換えて比較したことがある。

その時、「俳句の片言性」ということがし

きりに気になった。「片言」というのは、言葉

の一部分・不完全でたどたどしい言葉」という意味だが、これに従えば、俳句

一句はそれ自身では自立できない詩形だ

ということになる。俳句によく似た「一行

詩」はどうか? 草野心平の詩『冬眠』

にしたところで、作品本体に題名がついて、

かるうじて自立の形態を保っている。この

詩の作品本体は記号の「●」でしかないが、

題名の「冬眠」があるので、「地中に眠る命

(蛙)」をイメージすることができます。

詩歌の作者は誰しも作品が他人にどう読

まれ、どう伝わるかに、心をくだくものだ。

だが、俳句は題名もなく語句も少なく、絵

画でいえば「デッサン」のように未完成な

少しその考え方や思い」を述べるので、

どうにも十分ではない。それはそのまま、

読み手の閲与、負担の増大を示している。

俳句は面白(モノローグ)的ではなく、対

話(ダイアローグ)的だと言いたいおしても

いい。こんなことを考えていたとき、「片

言性としての俳句」は、目下猛威を振るつ

ている「ウイルス」のように、読み手の懐

に入り込むのではないかと、ふと思いつ

いたのである。俳句の短い文言は、読み手

を宿主として選び、宿主の解説・味読を通

して繁殖し、ひとつ的作品に育つのではないか、

ということである。

県内でもワクチン接種が進められておりま

すが、感染予防徹底のうえ皆様のご参加をお

待ちしております。

又、全句講評句会を秋尾敏氏をお招きして

年ぶりに開催されます。

中止が聞こえている中、賛否両論ある東京オ

リン匹ックが、開催される運びとなりました。

当協会においても、恒例の海の日(七月二

二日)に、茨城県現代俳句大会が通常通り一

年ぶりに開催されます。

コロナ禍の二度目の夏、お祭や花火大会の

発行所 茨城県現代俳句協会

編集人 高野よしこ

編集所 〒312-0011 ひたちなか市中根三六〇〇-一六七

事務局 〒311-3513 行方市手賀二四一六

印刷所 石岡印刷有限会社

〒315-0013 茨城県石岡市府中一三一

あ
と
が
き

令和三年七月一日 第138号

発行人 高橋和彌

高野よしこ

よしこ

よしこ